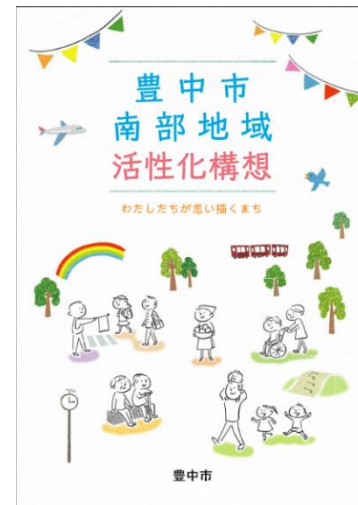

豊中市 南部地域活性化基本計画

市民説明会

令和元年（2019年）12月

1. 基本計画の位置づけ
2. 南部地域の現状、これからの動き
3. 南部地域活性化のコンセプト
4. これからに向けて
5. 学校跡地の利活用に向けて

1. 基本計画の位置づけ



活性化を推進する

南部地域の特長・課題
豊中市のまちづくりの動き
社会の動き



南部地域の将来像
活性化に向けたコンセプト

2. 南部地域の現状、これからの動き

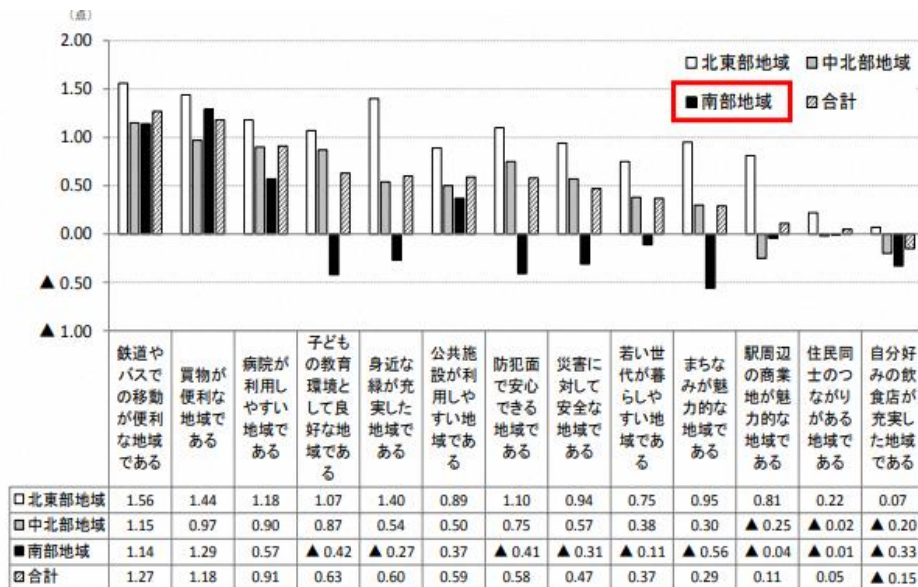
南部地域の地域特性（特長・課題）

市民の意識

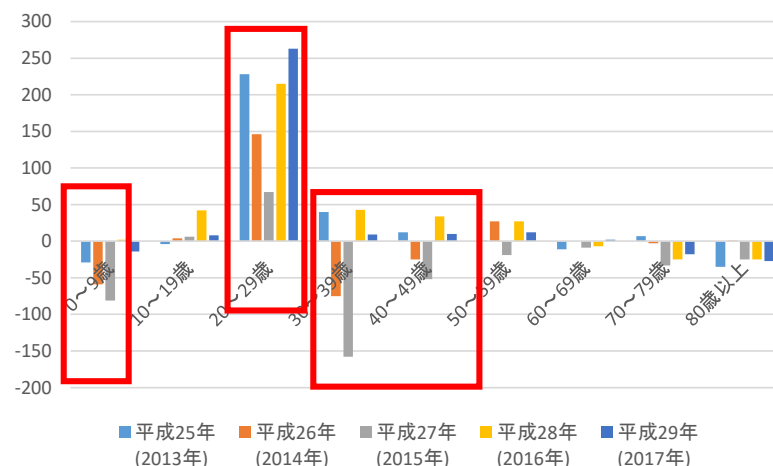
住環境、教育・保育環境、身近なみどり、防犯など、地域に対する評価が低い

人口

20代の転入者が多い一方、0～9歳・30～40歳代は転出超過の状態



南部地域における近年5年の転出入超過状況



2. 南部地域の現状、これからの動き

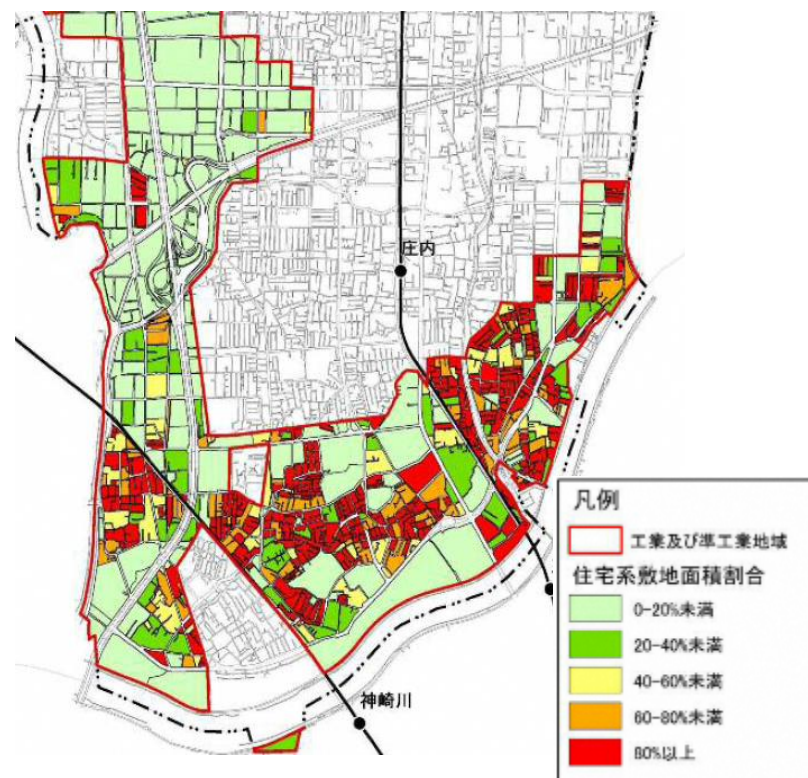
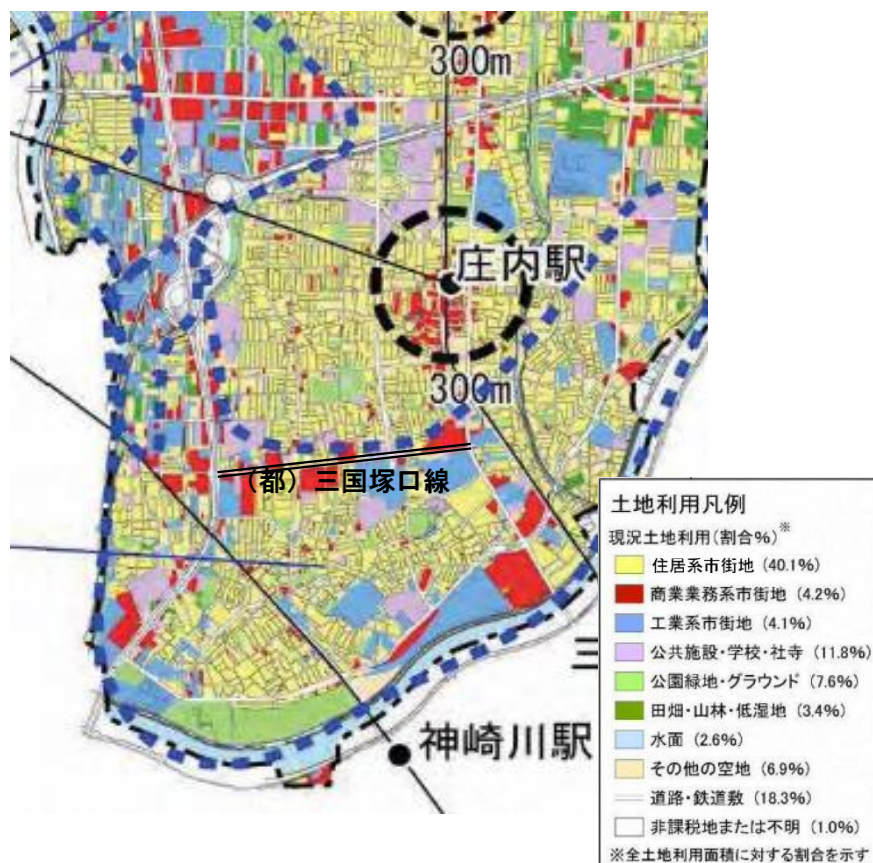
南部地域の地域特性（特長・課題）

用途・
土地

住宅地だけでなく、工業集積度も高く、
特有の市街地を形成

産業

事業所の集積度が高く、
住宅との混在も見られる



2. 南部地域の現状、これからの動き

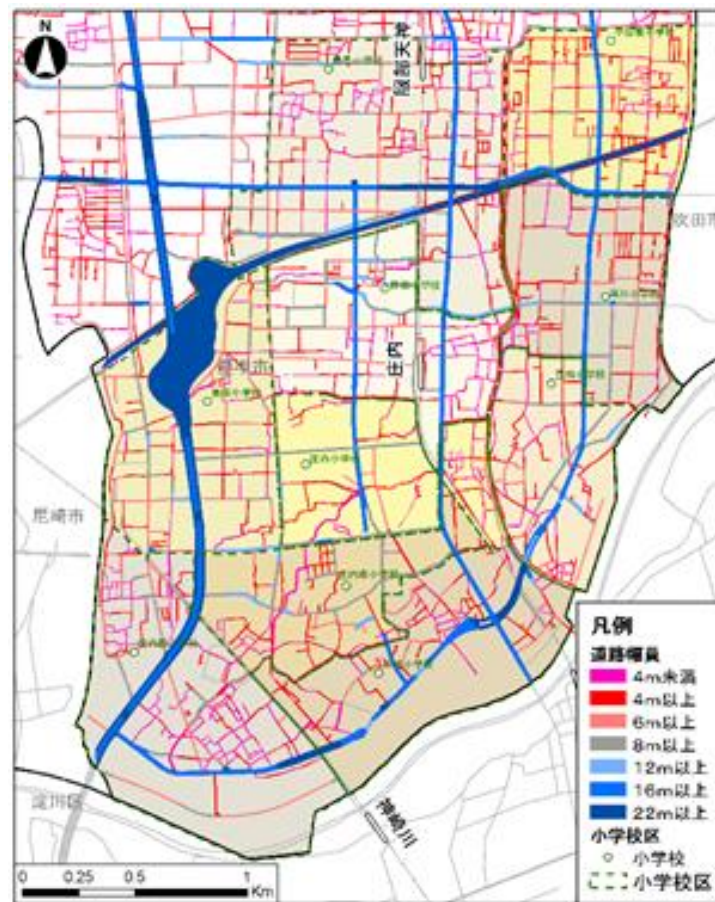
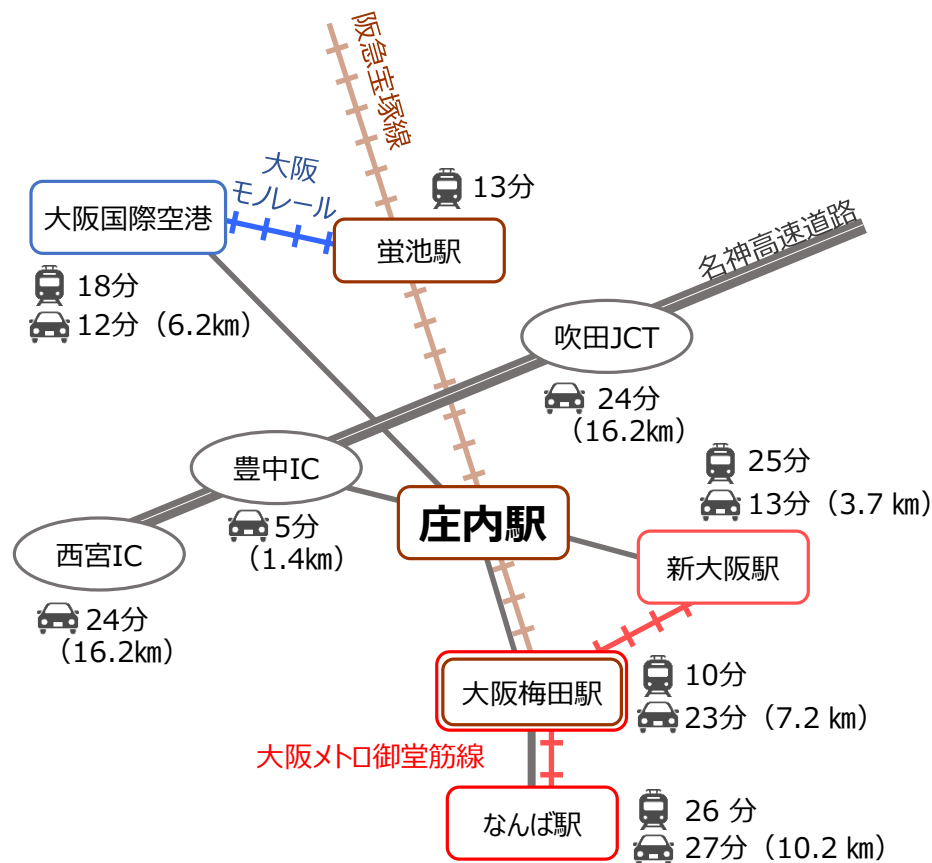
南部地域の地域特性（特長・課題）

生活
利便性

商業の集積・充実するとともに、
都心部や空港・新幹線への利便性も高い

住まい

老朽化の進む木造建築物、幅員の狭い
道路が多く、防災面での課題がある



2. 南部地域の現状、これからの動き

南部地域の地域特性（特長・課題）

教育・
コミュニティ

地域特有の行事や活動が行われている風景がある一方、
小中学校の児童数・生徒数の減少による小規模化が進み、地域活動の担い手確保が必要

児童・生徒数の推移



2. 南部地域の現状、これからの動き

南部地域をとりまく動き

学校や公共施設の 再編、跡地利活用

- ・ 小学校6校と中学校3校
- ・ 老朽化した公共施設
- ・ 再編に伴う跡地の利活用
- ・ 義務教育学校2校に再編
- ・ (仮称)南部コラボセンター
- ・ 民間活力導入も視野に検討

ICTフィールド

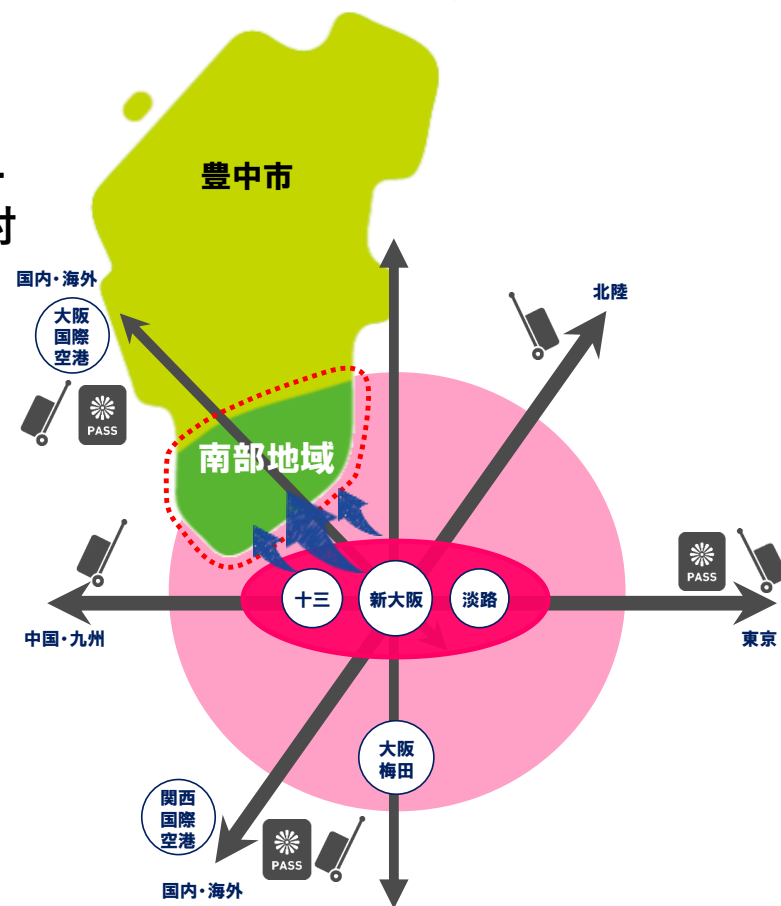
地域課題をICTなどの新技術やサービスを活用して解決するまちづくりをめざして位置づけ

実証的な取組みや最先端技術等の活用を積極的に

新大阪駅周辺の まちづくり

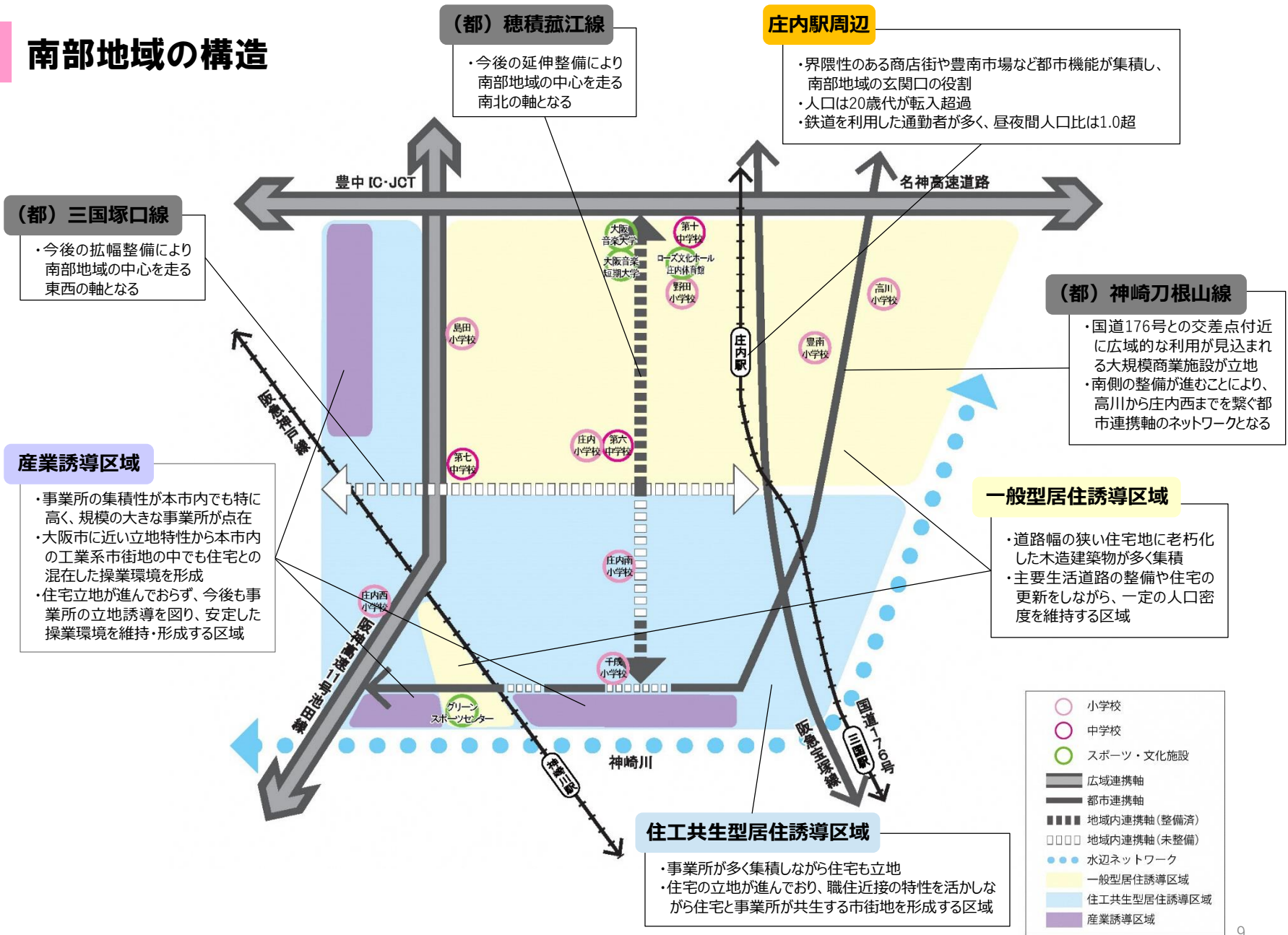
リニア中央新幹線を契機に
新大阪・十三・淡路一帯が
人・モノ・情報の拠点に

新大阪から約3.7キロに
位置し、変化の影響を
受けていく



2. 南部地域の現状、これからの動き

南部地域の構造



3. 南部地域活性化のコンセプト

心地よくって、個性豊かで、新しい！
豊中の“南の玄関口”は、新しいことにチャレンジする
次の時代の人材を育てる“みらいへの玄関口”

豊中の“南の玄関口”、南部地域。

都心近くに位置しながら、界隈性のある商店街と
事業所が交わるまちなみ、温かい人々は、
どこかホッと落ち着ける心地よさを兼ね備えています。

そんな“南の玄関口”は、暮らしや仕事のヒントになる
時代の変化を敏感にキャッチして、
新しいチャレンジを始めるスタート地点としても
抜群の場所。

ずっと住んでいる人からも、
ここで育ち、巣立った人からも、
そして新たな暮らし・チャレンジを始める人からも、
選ばれるまちへ。



3. 南部地域活性化のコンセプト

まちづくりの方向性

ステップⅠ

特色ある学びのフィールドと地域の連携を進める

- 義務教育学校の開校を契機に地域連携を進め、学びの場としての環境と魅力を向上
- (仮称)南部コラボセンターを核に地域のつながり、子育て・子育てを支援
- 最先端技術を教育や保育分野に活用し、特色ある学びをめざす

ステップⅡ

地域の拠点や核をつなげ、人を呼び込む機能を高める

- 既存の商業・サービス施設の集積を維持・強化し、地域内外のにぎわいを創出
- 拠点施設や跡地活用により地域の拠点や核の役割を発揮
- 地域内の道路網を整え、拠点・核を結び地域内外から呼び込み

ステップⅢ

様々なライフスタイルが実践でき、住み続けたい環境をつくる

- 子どもを産み、育てやすい住環境を充実し、地域内での住み替えや定住を促進
- 地将来の新しい働き方・暮らし方を思考する層が求めるライフスタイルの実践を促す
- 歴史ある産業と新技術産業のある産業のまちとしての価値向上

3. 南部地域活性化のコンセプト

将来のまちの姿（ゾーニングと拠点施設）

文化拠点

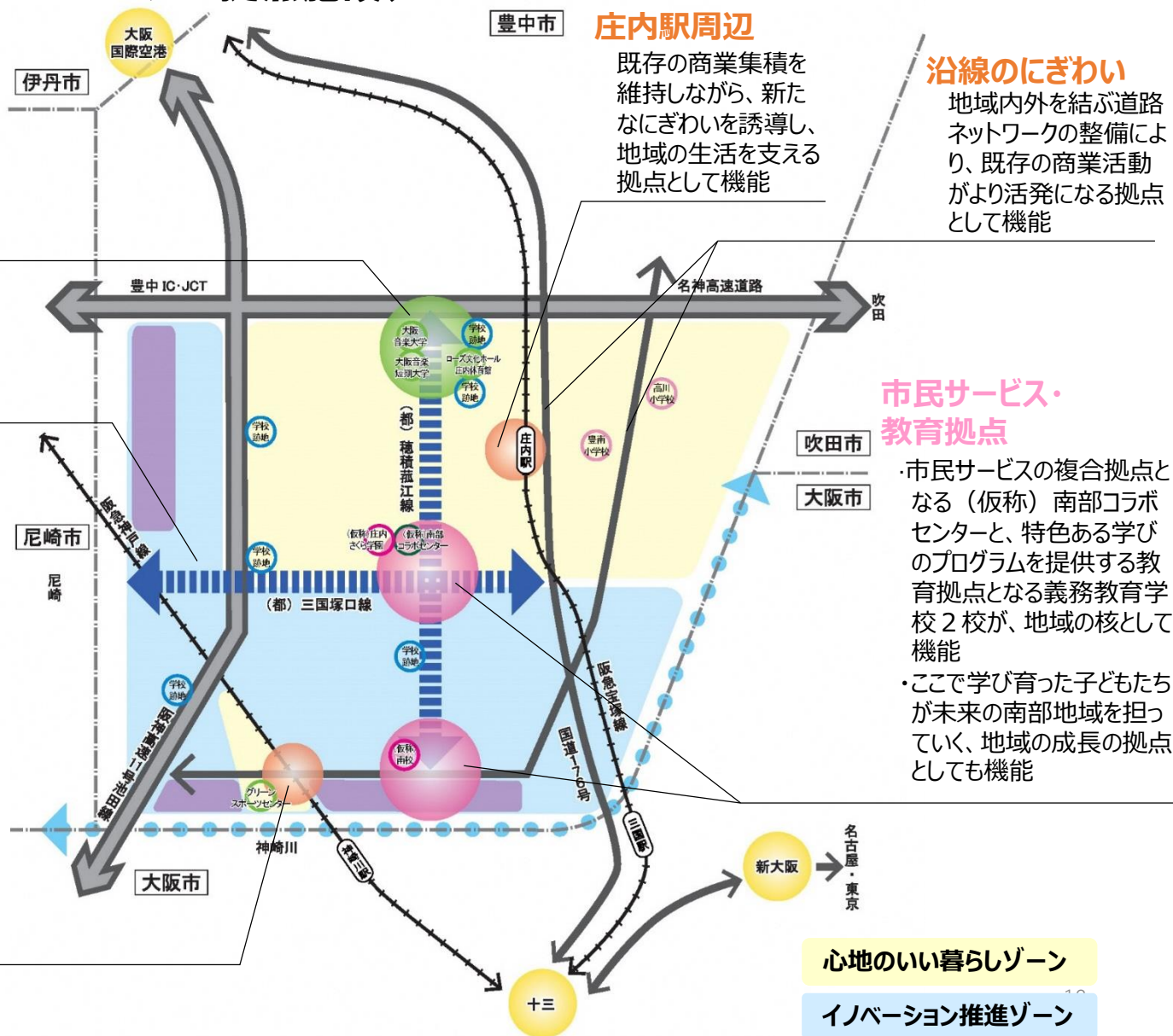
ローズ文化ホールや庄内体育館、大阪音楽大学など、南部地域を代表する文化的な活動拠点の集積性を活かし、学校跡地も含めた文化拠点として機能

地域内連携軸

拡幅工事と延伸工事を実施し、南部地域の東西南北の軸として機能

神崎川駅周辺

- ・（都）神崎刀根山線の延伸により、神崎川沿いの交通ネットワークが機能
- ・神崎川駅やグリーンスポーツセンターなどが立地した水辺空間という特性を活かし、水辺のにぎわい拠点として機能



庄内駅周辺

既存の商業集積を維持しながら、新たなにぎわいを誘導し、地域の生活を支える拠点として機能

沿線のにぎわい

地域内外を結ぶ道路ネットワークの整備により、既存の商業活動がより活発になる拠点として機能

市民サービス・教育拠点

- ・市民サービスの複合拠点となる（仮称）南部コラボセンターと、特色ある学びのプログラムを提供する教育拠点となる義務教育学校2校が、地域の核として機能
- ・ここで学び育った子どもたちが未来の南部地域を担っていく、地域の成長の拠点としても機能

心地のいい暮らしゾーン

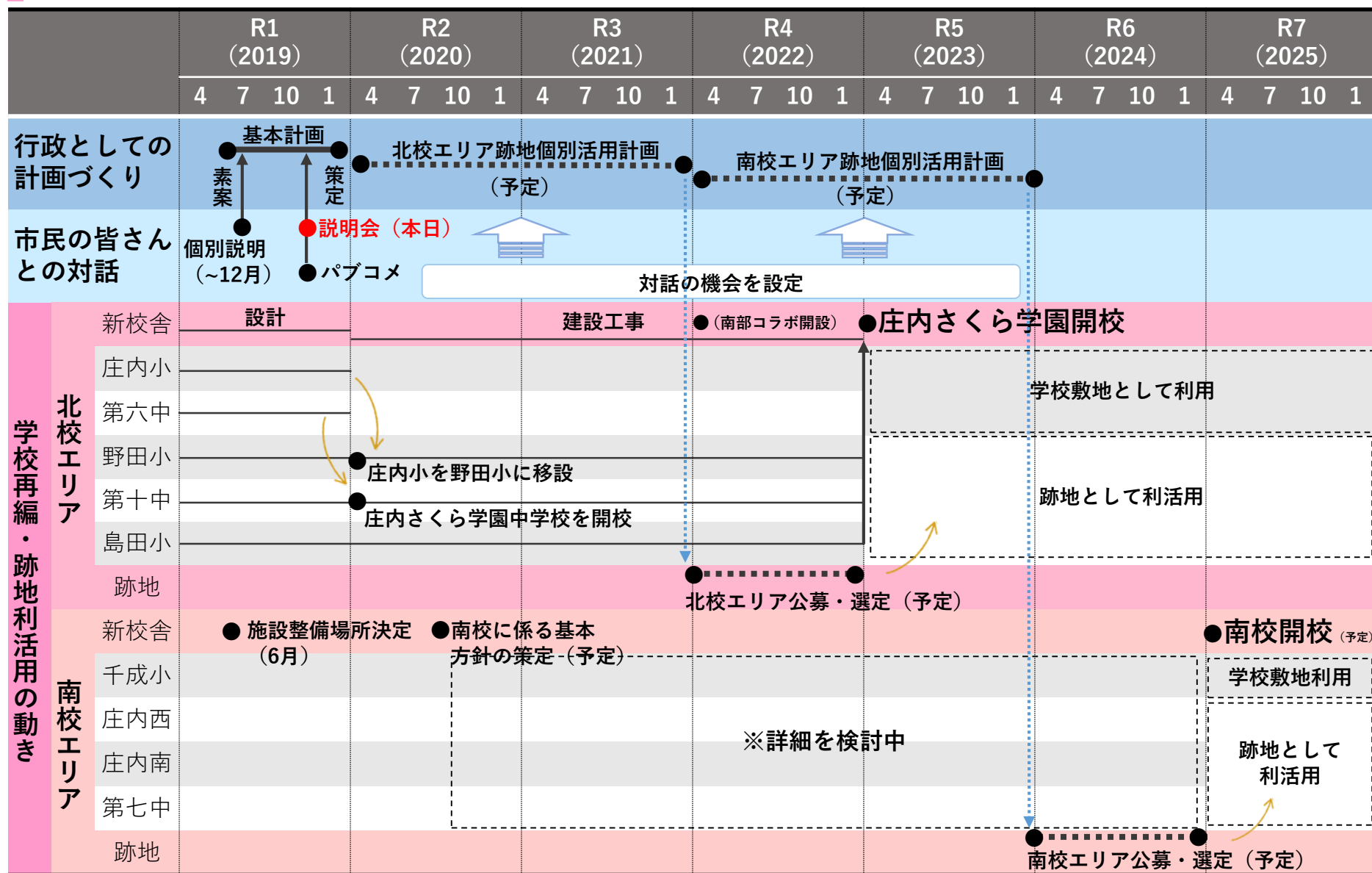
イノベーション推進ゾーン

4. これからに向けて

- 本計画は、約20年後の未来を見据えた将来像を描き、構想を推進していくことを目指しています。
- 南部地域の活性化を進めるためのこれからの展開に向けては、本計画に基づき、地域全体として確保すべき機能や新たに導入すべき機能を整理していきます。
- 学校再編により生まれた跡地の利活用にあたっては、各敷地で個別の活用計画を定め、効果的な活用ができるように検討を進めていきます。

5. 学校跡地の利活用に向けて

利活用の検討スケジュール



5. 学校跡地の利活用に向けて

利活用の検討手順

Step 1. 学校跡地に確保する機能の決定

防災機能の確保

地域活動の場の確保

公共目的利用

確保する機能の決定

防災、地域活動、公共目的として利用するスペースを整理したうえで 民間活力の導入など幅広い可能性を視野に入れた利活用方策の検討を行います。

Step 2. 利活用方策の決定

学校跡地利活用の基本コンセプト

- ① 子どもたちの未来につながるまちづくりをめざします
- ② まちの魅力、地域の活性化の拠点とします
- ③ 将来的な財政負担を抑えることを前提とします

政策課題への対応や地域のにぎわい創出に向け、

- ・市民
- ・民間事業者
- ・有識者等から意見、提案を収集したうえで、市全体のまちづくりの方向性と整合を図りつつ、効果的な利活用をめざします。

5. 学校跡地の利活用に向けて

利活用イメージ

学校名	民間活力の導入イメージ
野田小学校	・子どもの遊び場、子育て世帯がくつろげる場 ・屋内（イベントスペース（音楽イベントなど）・カフェ） ・屋外（野外ステージ（音楽イベントなど）、芝生広場） ・農園カフェ ・都市型スポーツ施設、宿泊施設 ・ものづくり・体験学習の場 ・住宅、医療施設、働く場 ・商業施設 ・物流施設 など
第十中学校	
島田小学校	
庄内西小学校	
庄内南小学校	
第七中学校	

※防災、地域活動、公共目的として利用するスペースを考慮したうえで 民間活力の導入（定期借地権・売却なども含む）など幅広い可能性を視野に入れた利活用方策の検討を行います。

※利活用イメージは例であり、確定したものではありません。

5. 学校跡地の利活用に向けて

利活用イメージ

VR映像

